

# 議員研修報告

## 空知町村議会議員研修

山田 秀明

開催日 6月29日

開催地 妹背牛町

講演 「東日本大震災からこ

れからの社会を考える」

講師 酪農学園大学理事長

麻田 信二氏

今の時代は経済の長期低迷、国・地方自治体の財政悪化、地方における少子高齢化の進行、経済格差の拡大など、大変な時代で「失われた20年」といわれる。

その原因として、日本はオイルショックから国際化のものと非常に大きな課題を抱えていたにもかかわらず何もしなかった。そのまま今に至り地方は少子高齢化、平成の大合併と市町村が半分以下になっ

てしまっている。これからは、地方の時代であり、だからこそ地域が元気になるなければならない。

農業)を社会経済の土台に据えなければ、近い将来人類は滅亡せざるを得ないと考えるようになった。農業や化学肥料をできるだけ削減するクリーン農業の推進に取り組み、北海道農業は有機農業を核とした環境保全型農業にしてい

く。また、地産地消も極めて重要であり、地域の消費者が地域の農産物を買えば、環境保全型農業を支えることができる。そのことが、何よりも優先される課題で、いま取り組まなければならない最大の環境対策だと考えている。

原発においても、即廃止とは言わないが、原発に頼らない新しいエネルギー開発に重点を置き真剣に取り組んでいかなければならない。

今回の東日本大震災は、日本人ばかりでなく、世界の人達にとって文明とは何か、我々はこれからの時代、どういったことをしなければならいいのか、問われている歴史的な転換期ではないか。

## 北海道町村議会議長会主催議員研修会

西内 陽美

開催日 7月5日

開催地 札幌市

講演 「今後の政治の行方」

講師 東京大学教授

御厨 貴 氏

御厨氏は東京大学先端科学技術センターの教授をする傍ら、今年4月からは「東日本大震災復興構想会議」の議長代理として活躍されている。

講演の冒頭で民主党と自民党の体質の違いに触れ、民主党支持率が20%の底値を打つにいたる経緯について述べた。

民主党が審議会などを進める場合には、基本的にフルオープン。予めの調整無しで何

度も会議を持ち議論を重ねるので時間を要するが、それを善しとするプロセス重視。菅総理を始め市民運動家出身が多いが故に、反主流・非主流派があつて当然。頼むところは「自らのリーダーシップ」とする点が今までの政権政党と大きく異なる。

の期限を定め、それまでにどのような方策をとるか水面下でも調整を進めていた。決定方式は多数決によると党則で定めてはいるものの小泉政権以前にはそれは無く、全会一致の形をとっていた。

御厨氏は東日本大震災復興の後には民主党の体質に起因するものが大きいのではないかと指摘。政権党であるならば「スピード・中身・優先順位の見極め」が最重要であつて、政権交代後の新政権が評価される「初動の百日」が示されなければ人心は離れていくと危惧した。さらに、日本は良くなると期待した自民

党・民主党の政権交代は間違

いではなかつたのか? どちら

らかの一党が政治を押し

ていた。また、昨今の学生達が捉える将来の選択肢にボランティア活動があり、その先に政治家があるという新しい社会参加の芽が生まれ始めている現状を取りあげ、若い世代の政

治への柔軟な接し方や、情報の量的整理はできても質的管理能力は未熟な彼らを既存の政治にどう繋げていくか、彼らの政治を大人が受け入れる時代は来るのか?と投げかけられた。

プロセスII情報の開示の重要性と迅速な結果への調整は、そのまま目指すべき議会の姿と重なり、多くのご示唆を頂いた講演であつた。



▷東京大学教授 御厨 貴 氏